

乳腺・甲状腺外科

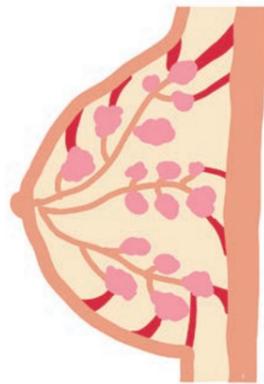
■乳腺・甲状腺外科医長 臼井 由行
 ■乳腺・甲状腺外科医師 秋山 一郎

乳腺・甲状腺外科は平成元年より外科の分科として活動しています。当院は日本乳癌学会、日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会の認定施設として、診療・研究を行っております。

I 乳腺外科部門

日本ではこの30年間で乳癌にかかる割合が3倍に増えました。女性の約12人に1人が生涯に乳癌にかかるようになってきました。乳癌は早く見つけることで治る癌です。

40歳以上の女性に最も有効な検診はマンモグラフィーです。若い人は乳腺の密度が高くマンモ



では見落とし易いためエコーが推奨されています。視触診はおおざっぱ過ぎるため今後廃止される方向です。

外来ではマンモグラフィー、超音波検査を行い、あやしい腫瘍が認められたら、細い針でその部分を採取します。それを顕微鏡で病理医が診断するわけです。その一連の手順で、乳癌と診断されれば、外来でCT、MRI、骨シンチグラフィなどの全身の画像検査が行われます。そして入院、手術となります。近年では、入院期間は1週間以内です。今のところ手術以外に完治させる治療はありません。

II 甲状腺外科部門

甲状腺は首の前にある蝶々のような形をした内分泌臓器です。通常は10~15gで外から触れないくらい小さな軟らかい臓器です。甲状腺ホルモンというからだになくてはならないホルモンを分泌します。甲状腺ホルモンは代謝を調節しています。すなわち食べたものをエネルギーに変える速さを調節しています。ホルモン分泌とはあまり関係のな

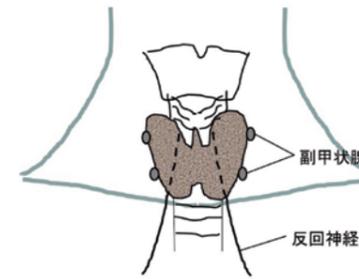
最近では乳癌遺伝子の検査が治療に役立つようになりました。人の1割が生まれつきこの遺伝子を持っており、女性の場合、4~8割程度の高確率でいずれ乳癌が発症します。卵巣がんになる確率も1~6割なので、アンジェリーナ・ジョリーはがんが発症する前に乳房と卵巣を切除しました。日本では岡山大学病院など数か所で予防的切除を行っています。この遺伝子は50%の確率で子供に伝わります。男子にはほとんど影響はありませんが、その子供、すなわち孫に伝わる可能性はあります。

遺伝子検査は20万円程度かかり、保険適応があるのは乳癌再発患者さんの一部に限られています。採血すれば3週間程度で結果がわかります。乳癌遺伝子を持つ人にだけ使える抗癌剤も登場し、今後ますます治療は進化するでしょう。生まれたときに採血すれば、将来自分がどんな癌になりそうなのかわかる時代がやってきそうです。でも、なんだか気味が悪い気がしませんか？



視鏡下甲状腺手術も行っております。すなわち、頸部に傷をつけずに、鎖骨下の3cmの傷より内視鏡を用いて手術を行っております。また、甲状腺癌に対する放射性ヨード治療(アイソトープ治療)も放射線科と協力して行うことができる数少ない施設です。

甲状腺の解剖



甲状腺も体表の臓器ですので、超音波検査を行います。そして、腫瘍があれば、乳癌と同様に細い針で細胞を採取する検査(穿刺吸引細胞診)が行われます。甲状腺の手術のための入院も1週間以内です。



左から臼井、秋山、山下、東、就実大学学生、田頭、高野